ブラジル朝日新聞
Sr. M. Kobayashi
R. Galvão Bueno, 41
Nesta
伯國聖市マエストロ カルチン街一一〇九 發行所 ブラジル朝日新聞社
本紙定價年六十ミル 外國郵税共百廿ミル

マークと共に 奇跡の吹れっこ コロムビア

論議・翼賛會の核心へ

生硬な憲法論を提げ 川崎克氏執拗に迫る

政府、眞向から謬論を駁撃

（東京廿五日同盟）廿五日の議會は貴族院は本會議、委員會共になく、衆議院も本會議なく、委員會も赤字公債委員會が開かれたのみで前日にひきつゞき專ら主力を豫算總會に集中、この日は勞頭臨時軍事費追加案の提出あり、次で川崎克、森田福市、中島彌團次の諸氏よりそれ〴〵質問に蘊蓄を傾けたが、川崎氏まづ大政翼賛會の政治性につき生硬なる憲法論を代表した形で執拗に政府の所信を質せば、首相、内相は眞向より憲法批判論駁擊をなし、翼賛會に關する論議がいよ〴〵核心に入った

枝葉末節の法理論 翼賛運動に惡影響

伊藤總裁非公式に表明

【東京廿五日同盟】廿五日衆議院豫算總會における川崎克氏の大政翼賛運動の本質に關する質問は單なる形式法理論に過ぎず、かつかゝる論議は漸く實踐期に入つた大政翼賛運動に惡影響を及ぼすと、同正午伊藤情報局總裁より非公式に政府の意向を左の如く表明した

川崎氏に對する政府側の見解は平沼内相の答辯中の最後の部分に盡くると思ふ、即ち大政翼賛運動は万民がおの〴〵その職域において御奉公申し上げることを意味し憲法上の統治權とか國務大臣の輔弼、責任、議員の協賛權とかを否認するものでない、從つて憲法の精神に反することは全然ないと確信する、なほ川崎氏は万民翼賛なら差支へないが大政翼賛といふのはいけないといつてゐるが、翼賛運動の規約を見ても判るやうに運動の目的として万民翼賛といふ言葉を使ひ大政翼賛といふ言葉は使つてゐない、また衆議院統裁といふ言葉はドイツ流の憲法にあるのでいけないといふが、統裁といふことは議長に一任といふことである、翼賛會が憲法違反とすれば大多數の議員は翼賛に入つてをり これらの議員も憲法違反の態度をとつてゐることゝなるではないか、要するに川崎氏の質問は辭句の論議に終始し本質を辨へざるものである

船舶の危險防止へ 海軍省万全の對策

まづ船舶保護法案を提出

【東京廿四日同盟】海軍省は壊滅的に前十時十二分閣議に承認を經て今議會に船舶補助法案を提出し國家總力戰の形態をとつて來た近代戰における海外通商交通の保護、敵國の通商破壊戦に對し兵力をもつて船舶（商船、漁船）を保護するとともに必要な命令を海軍官憲がなすことを得ることを目的とし、過般の淺間丸事件のごとき不祥事や目下歐洲に行はれてゐる獨貨拿捕のような危險を未然に防止せんとするもので、今日歐洲で行はれてゐるような船舶の編隊航行およびこれに要する船舶の設備、乘員の訓練など海軍としては保護し易

【東京廿五日同盟】政府提出議案大整理の結果、今議會の最重要法案となつた國家總動員法中改正法律案は企畫院および法制局を中心に案文を調整中であつたが、漸く成案を終るに至り廿五日臨時次官會議を開き最後的調整を行ひ大體廿七日の閣議に附議、正式決定、直ちに衆議院に提出することゝなつた、今回改正の基本方針は

一、各條項にわたる不備缺陷の補正

一、戰時の急に應ずる委任立法範圍の擴大

三、積極建設的生活の賦與

四、罰則の強化

などにあり、實體改正の部分のみでも十數ヶ條にわたる大改正であるが、改正の主要點は

一、統制組合の規定を統制團體の規定に改正、もつて不

一、總動員、物資總動員、業務の總動員を削除し適用範圍を擴大した

などであり、新條項としては

一、債務の支拂ひ條件について必要な命令をなし得ること

一、事業の免許制を實施し得ること

一、消費統制稅の如き經濟統制實施上必要な課稅をなし得ること

などが追加される模樣で、また現行最高一万圓を一擧に三万圓に增加する方針である

國民生活の目付役 總動員法改正案愈よ成る

【東京廿五日同盟】政府提出の國家總動員法改正案は、今議會に提出となつた産業團體法の機構を果し得ることゝした。

一、命令社の合併、解散などを命じ得ることゝした

一、勞務者の移動防止など勞務統制を強化した

一、統制組合の規定を統制團體の規定に改正、もつて不

一、總動員、物資總動員、業務の總動員を削除し適用範圍を擴大した

一、債務の支拂ひ條件について必要な命令をなし得ること

一、事業の免許制を實施し得ること

一、消費統制稅の如き經濟統制實施上必要な課稅をなし得ること

などが追加される模樣で、また現行最高一万圓を一擧に三万圓に增加する方針である

獨の石油貯藏量 電擊戰に餘裕あり

英米、旺んに氣を病む

【ニューヨーク廿四日同盟】ガソリンには不自由なく、現在の發動機用油貯藏量は大戰發動機用油が今では四千九百万バレルで、これをもつてすると陶白初期攻撃のような電擊戰當時には四千万バレルの開戰當時には大戰發動機用油が今では四千九百万バレルで、これをもつてすると陶白初期攻撃のような電擊戰に餘裕あり、即ちこれによれば

援蔣ルートを切斷

豊田海軍次官から視電

【東京廿五日同盟】昨年末ビルマ・ルートの功果新橋の襲破以來さる廿三日の功果舊橋遂破に至るまで數次にわたる襲撃により、南方唯一の援蔣ルートたる滇緬公路を完全に破壊した海軍航空部隊武勲には戰時、事變および第三國間の交戰などで絶縁保護の必要なるときとなつてゐる

豊田海軍次官は廿四日大本營海軍部近藤軍令部次長ならびに豊田海軍次官から左の祝電を發した

南支航空部隊が反覆攻撃つゞけ精妙なる技倆を發揮し遂に滇緬路の完全遮斷に成功せしめたるを欣賀す

人絹引張り風 販賣割當て更に增加

【東京廿五日同盟】人絹の輸出好調に鑑み人絹聯では一月の販賣數量を舊臘十二月より一万箱增しの四万五千箱にしたが、その後も商談は順調に推移し二月ものも殆んど賣餘力なく相場も依然として堅調を續けてゐるので、二月度のみ個人リンク販賣割當をさらに五千箱增加した五万箱とすることに決定し、廿四日加盟各社に通告した。從來は輸出高の割方も上廻つてゐる實狀なので、先行はさらにひき締るものと豫想される

上一日も速くその實を擧げてくれることを待望してゐる、新體制も實行期に入らうとする矢先嫌がらせみたいな法理論を振り廻すのはチトどうかしてゐる▼イタリアはトルクをまたしてやられた、目下のところ軸側はもつともよい所がない、英側はますます〳〵活氣づき、それが中立國は勿論フランスなどの動向にまで影響してることは確かだ▼松岡外相演説中にもこれに觸れて伊側の不振は第三國のデマだ、結局伊軍は勝利するだらうと一本釘を差してるが、盟邦に對する挨拶だから是非もないが、イタリア側の存外厨甲斐ないことは日本でも問題となつてゐることは疑ひない

英極東勢力の擦撞

シンガポール

衆議院豫算總會 ＝第三日

【東京廿五日同盟】衆議院豫算總會、廿五日の衆議院豫算總會は午前十時十二分開會政府提出（一）臨時軍事費追加案、につき河田藏相より臨時軍事費豫算追加として計上するところの金額は歳入歳出各十億圓、時局に關する軍費支辨のため要するもので、公債および繰替借入金九九、七六六万圓、北支事件特別稅二三二万圓、その他財源となるを説明、ついで質疑に入り

川崎克氏 新體制下において責任政治の確立が急務である、これは勿論憲法第五十五條の輔弼責任を負ふことである、しかして責任政治の確立には信賞必罰を嚴守せねばならぬ

近衛首相 從來官界でとかく下克上の風あることを聞く、自分も率直に申上げてかくの如きことはなきに非ずと認める、この點に關しては輔弼の責に任ずるものとして、信賞必罰の勵行に當りたい、輔弼の責任については深く考慮して誤りなきを期する

これなくして官界新體制は出來ぬと思ふ

川崎氏 軍部大臣の所見如何

東條陸相 國務大臣としてその範圍内の責は充分盡くしてゐるから御安心願ひたい、但し陸軍においては統帥大權に屬することがありこれは國務の範圍外である、國務の範圍内のことについては充分責を盡してゐる

及川海相 海軍としても官ついては充分意を用ひてゐるから御安心ありたい

川崎氏 事變勃發以來人件費豫算は約二割見當增加してゐる、樞府御諮詢案件中官廳の人員增加に關する件が大部分ときく、緊急已むを得ざる增員は別として時局に便乘し職制文官の規定を素る者が多い、從つて官吏を增員しながら事務が進捗しない、官廳事務の整理につき政府の所見如何

近衛首相 官廳事務の再編成としては第一に不急不要の事務を整理すること、第二は行政機構を必要に應じて改正すること第三には事務の簡易法をはかること、この三點を考究して實現をはかりたい

川崎氏 大政翼賛會の政治性が問題となつたが、この政治性格とは如何なるものを指稱するのか

首相 大政翼賛運動の趣旨とするところは、政府の樹てた政策を國民に徹底せしめるように政府に協力することである、即ち上意下達と國民の間における不平不滿などを調査して政府の參考に資する下情上達の二方面である、即ち政府と協力する擬闘で擬自の政策を掲げて進める政黨とは異る政治性を有する所上意下達、下情上達の擬闘たる意味においてゞある

川崎氏 憲法上大政翼賛はいかなる意味を持つか

首相 大政とは天皇の國家統治の御皇道、即ち狹義の御政治でなく廣く天皇の大御業を指すのである、大政翼賛とは、この天皇の大御業を翼賛し奉ることである、

川崎氏 伊藤公の憲法議會は國務大臣に限られてゐる、これは單に憲法議會のみでなくその他の御詔書などにも明記してある、憲法上大臣を翼賛し奉るものは國務大臣と帝國議會の外にないと思ふ、しかして當時の大權はこゝに明確に定められた翼賛機關を無視したものである

川崎氏 臣民の翼賛機關としては帝國議會がある、上意下達、下意上達は國民の參政權を通じてなさるべく、議會の上奏權建議權、請願權で充分出來ることのほかに下情上達の機關をつくることは議會の權限を侵すものではないか

首相 大政翼賛運動は議會の權限を侵すものでなくまたはない、むしろ議會の作用を補充するものである

川崎氏 憲法の上論にも明治廿九年の御詔書にも國民翼賛の機關は議會に限ることをはつきり仰せ出されてゐる、議會と政府と一體となつて政治を行へば充分國民翼賛の實を擧げ得る

首相 答辯せず

川崎氏 機關が無能ならば解散すればよい、補助機關として翼賛會を設ける必要はない

首相 憲法と議會との關係については政府と川崎氏との間に見解が違ふようである

川崎氏 法的根據を明示されたい

村瀬法制局長官 憲法條章は改正すべきものでなくまた現に恪順すべきは言を俟たない、大政翼賛會は政治諸政策の遂行に當り國家總力を發揮するための機關である

川崎氏 憲法の上論にも明治廿九年の御詔書

村瀬法制局長官 大臣の輔弼によつて行はれることは疑ひない、大政翼賛運動は大政のみを廣義に解し、治ねく天皇が國家、國民を統治遊ばされるのを國民として翼賛し奉ることで、法律上の意義に限定されないのである

川崎氏 上意下達、下意上達は國民の參政權を通じてなさるべく、議會の上奏權建議權、請願權で充分出來ることのほかに下情上達の機關をつくることは議會の權限を侵すものではないか

首相 大政翼賛運動は議會の權限を侵すものでなくまたはない、むしろ議會の作用を補充するものである

川崎氏 憲法の上論にも明治廿九年の御詔書

村瀬法制局長官 憲法條章は改正すべきものでなくまた現に恪順すべきは言を俟たない、大政翼賛會は政治諸政策の遂行に當り國家總力を發揮するための機關である

首相 答辯せず

川崎氏 機關が無能ならば解散すればよい、補助機關として翼賛會を設ける必要はない

首相 憲法と議會との關係については政府と川崎氏との間に見解が違ふようである

川崎氏 法的根據を明示されたい

村瀬法制局長官 憲法條章は改正すべきものでなくまた現に恪順すべきは言を俟たない、大政翼賛會は政治諸政策の遂行に當り國家總力を發揮するための機關である

川崎氏 萬機公論に決すとのことは設置された帝國議會の議事運用には多數決の上陛下の御親裁を仰ぐことゝなつてゐる、わが國において天皇陛下のみがあらせられるが、政府は統裁についてはは多數、少數の上には公論に據る正論をとるといふが、かゝる說は憲法政治の方式を誤まる說であり、政府は眞に憲法政治を趣直して欲しい

川崎氏 萬機公論に決すとのことは設置された帝國議會の議事運用には多數決の上陛下の御親裁を仰ぐことゝなつてゐる、わが國において天皇陛下のみがあらせられるが、政府は統裁についてはは多數、少數の上には公論に據る正論をとるといふが、かゝる說は憲法政治の方式を誤まる說であり、政府は眞に憲法政治を趣直して欲しい

平沼内相 大政翼賛會は現内閣が是認するものである、憲法違反論に對しては明白に説明して從はねばならぬ、万民が天皇を翼賛し奉ることは疑ひない、万民翼賛と憲法上の權限を侵すものではない

首相 大政翼賛運動は議會の權限を侵すものでなくまたはない、むしろ議會の作用を補充するものである

川崎氏 憲法の上論にも明治廿九年の御詔書

村瀬法制局長官 憲法條章は改正すべきものでなくまた現に恪順すべきは言を俟たない、大政翼賛會は政治諸政策の遂行に當り國家總力を發揮するための機關である

首相 答辯せず

川崎氏 機關が無能ならば解散すればよい、補助機關として翼賛會を設ける必要はない

首相 憲法と議會との關係については政府と川崎氏との間に見解が違ふようである

川崎氏 法的根據を明示されたい

村瀬法制局長官 憲法條章は改正すべきものでなくまた現に恪順すべきは言を俟たない、大政翼賛會は政治諸政策の遂行に當り國家總力を發揮するための機關である

伸び行く東亞新秩序

第三國の策動を排除
堂々帝國の威信示す
タイ、佛印紛爭に居中調停

【東京廿四日同盟】タイ、佛印間國境紛爭事件は昨年十一月末勃發以來本年に入つてからますゝ激烈となり東亞の安定上並白からざる事件としてその成行は東亞新秩序建設に過進する帝國政府の憂慮してゐたところであつたが、この間東亞に日本勢力が浸透することを喜ばず、わが勢力の驅逐に大童となつてゐた英米はこれが調停に乘り出さんとしてタイ國政府および佛印南部にその勢力をもつ佛ドゴール派に盛んに働きかけ屢々英米の調停說が傳へられてゐた、一方タイ、佛印におけるこれら勢力は直接交渉の運動をも行つてゐた、しかるに兩國の紛爭はその後次第に猛烈となり遂に完全な鬪爭狀態にまで發展、最惡の事態に立ち至らんとしたゝめ、東亞安定勢力に指導的地位を占める帝國政府はこれを默視出來ず、舊臘來松岡外相はアンリー在京佛大使およびシイセナ在京タイ公使に對し居中調停に立ち紛爭解決を斡旋せんことを申入れた

右に對し佛、タイ兩國政府部內にも種々の意見も出たが廿四日にいたり兩國政府は帝國の調停を受諾する旨の回答をなし來つた、兩國政府が右のごとく帝國の調停申入れを受諾するに至つたのは東亞共榮圈內における帝國の指導的地位を確認したことによるもので、これが成果はかゝつて今後の調停會議の成否如何にかゝるものであるが東亞新秩序建設のため絕大の意義があるしかして右調停に關する討議は松岡外相主催の下に近く東京において開催される見込みで、右會議には在京アンリー佛大使、シイセナ、タイ公使が兩國政府を代表して出席するほか兩國とも現地より專門家代表がこれに加はり協議を行ふことになつてをり、東亞共榮圈內における日タイ、佛印三ヶ國がわが指導力の下に歩調を合せて英米の策謀を排除し敢然起つて東亞新秩序建設の巨歩を現實に踏み出したものといふべく、かゝる會議が東京において行はれることは、けだし太平洋をはさんで國際的に微妙なる空氣のたゞよつてゐる現在絕大の意義を有するものである

佛政府側の發表

【ヴイシー廿四日同盟】佛政府は佛印・タイ國の國境紛爭に關し日本政府の調停申し入れを受諾した旨廿三日次の如く發表した

日本政府はさる廿一日佛印タイ兩國紛爭につき調停を申し入れ來つたので、政府はアンリー大使に對し日本政府と調停手續につき取り極めをなすようにした

まづ停戰取極め
東京で調停會談

【ハノイ廿五日同盟】タイ・佛印紛爭に關する帝國の居中調停申し入れ受諾によつて國境軍事行動を廿四日以來實上休戰の狀態に入つた、佛印タイ兩國政府は速かにタイ國との間に停戰取り極めを希望し、東京における調停會談に軍事、外交專門家を派遣すべく詮衡を進めてゐる

しかして佛國側に對しては十二月初旬在京アンリー大使を通じ非公式に紛爭解決に關し調停の用意ある旨申入れおきたり、しかるにその後事態は沈靜妥結の方向に進まざるのみならず最近においては兩國の戰鬪まさに擴大せられ前途頗る憂慮すべきものありと認められゝ至りしをもつて一月廿日松岡外務大臣より佛タイ兩國政府に對し戰鬪行爲の即時停止および居中調停に關する帝國政府の提議を正式に申入れたるところ今般右申入れに對し佛、タイ兩國政府はそれゝ受諾の旨回答し來れり

朝鮮總督府人事

【東京廿四日同盟】朝鮮總督府內務局長大竹十郎氏は今回勇退することゝなり右に伴ふ異動は廿三日拓務省より左の如く發令された

朝鮮總督府慶尙北道知事 上瀧英雄
任朝鮮總督府內務局長兼朝鮮總督府中樞院書記官長 高橋敏
朝鮮總督府々尹 任朝鮮總督府慶尙北道知事

外務辭令

【東京廿四日同盟】加藤駐佛大使の後任は沈靜妥結の方向に進まざるのみならず最近において兩國の戰鬪まさに擴大せられ前途頗る憂慮すべきものありと認められゝ至りしをもつて一月廿日松岡外務大臣より佛タイ兩國政府に對し戰鬪行爲の即時停止および居中調停に關する帝國政府の提議を正式に申入れたるところ今般右申入れに對し佛、タイ兩國政府はそれゝ受諾の旨回答し來れり

富井駐アルゼンチン兩大使の親任式は廿四日午前十時宮中鳳凰の間に天皇陛下出御、近衛首相侍立のもとに行はせられ、首相より左の如く官記職記を傳通した

加藤外松任特命全權大使、佛國駐劄被仰付
任特命全權大使、アルゼンチン國駐劄被仰付 富井周

わが眞意を諒解
佛印、泰共に快諾
情報局、經緯を發表

【東京廿五日同盟】タイ、佛印國境紛爭に對する帝國政府の調停申入れに關する情報局發表（廿四日）

タイ國および佛國政府は今般タイ、佛印國境紛爭に關する帝國政府の停戰および紛爭調停申入れを受諾せりタイ國における尖地回復運動の氣運發生以來タイ、佛印間の關係緊張の一途を辿りたるにつき、帝國政府は大東亞の靜謐と東亞民族の共存共榮を顧念しかゝる問題は干戈に訴ふることなく平和裡に解決せられんことを欲し、必要なる措置を施し來れるも不幸にしてその後についてタイ、佛印間に武力鬪爭を見るにいたれり

海底の寶捜し
出るか千兩箱、
引揚げた小判は元祿もの

【東京發】義士の赤穗から奥兵庫縣赤穗町鹽屋の舊家柴原氏の遺品中から發見されたも味深い古文書が長持一杯出た

義士の「酒通帳」現る
內藏之助は一日に三—五合

の、この古文書は鹽の赤穗を物語る赤穗鹽業誌や洪水史、公用日記、藩主淺野家、森家などを中心とした記錄で殊に面白いのは元祿年代西播きつての富豪で淺野の殿さまに御用金を糸つてゐた柴原家（故代議士柴原政太郎翁の本家）が當時造酒を業としてゐたため淺野家をはじめ大石內藏之助その他義士の面々に賣渡した酒賣渡しの萬覺帳が現れ、これによつて淺野家の家中で誰が最も酒をよく飲んだかなども推定できるわけ、大石內藏之助樣酒引といふ頁を見ると

元祿十三年五月十七日一夜七分上酒一升とあり、隔日あるひは三日ごとに一升買となつてゐるところから內藏之助は一日三合乃至五合程度の酒を飲んだものと推定され、最も多いのは近松門左衛門の子ゝ隅野金右衛門（九郎兵衛）、大野軍右衛門、早水藤左衛門、原惣右衛門などでいづれも酒賣渡大福帳に記されてをり有名な豪酒家といはれてゐる、赤垣源藏や堀部安兵衛がこの帳面に記されてゐないのは何れも當時江戶詰であつたためとみられてゐる

なほ古書は淺野家の菩提寺たる花岳寺片山住職、眞光寺村上住職によつて眞元寺に移され、鹽珠中【寫眞は萬覺帳の大石內藏之助に賣つた酒引】

海底の寶捜し
出るか千兩箱、
引揚げた小判は元祿もの

大判だ(小判だ)

師走話題を提供してゐる德島縣那賀郡椿町沖合から引揚げられた小判、延金、小粒など一體いくらの價値があるのだらう？お金の本山造幣局の鑑定では「慶長小判の場合は目方四匁七分六厘、純金含有量千分中八四二・九、銀は約一三〇その他銅で・九、小判形延いはゆる丁銀は銀の含有量は大小重量によつて多少增減があるが平均千分中八〇〇で他は銅です時局下うんと引揚げられたいものです」と語つてゐる

街の兩替店でもあの「小判は縱二寸三分から三分五厘横一寸二分五厘から三分で重さは四匁七分六厘前後、楕圓形、正面に一兩、〇元桐の紋があり

（慶長小判）

だが〇元の文字があるのはまさしく元祿小判だと鑑定」以前は慶長小判だと百四五十圓、元祿は八、九十圓

骨董(價値が)

五十圓、元祿二十圓、小粒も丁銀と同性で大はお多福豆から小は小豆位で骨董價値はないがとにかく千兩箱が發見されたら大したものです」との話—十一日までの引揚は小判五、小粒六一、延金十二枚だから以上の鑑定によるとまづ二百八十圓くらゐ、しかも國寶的見地からその功蹟は大きいと關係方面では好評判である

（慶長小判）

割合にあつて慶長五十圓、

（產婆）タミ子

（伯國公認申請中）

大判だ(小判だ)

豪勢な師走話題を提供してゐる德島縣那賀郡椿町沖合から引揚げられた小判、延金、小粒など一體いくらの價値があるのだらう？お金の本山造幣局の鑑定では「慶長小判の場合は目方四匁七分六厘、純金含有量千分中八四二・九、銀は約一三〇その他銅で・九、小判形延いはゆる丁銀は銀の含有量は大小重量によつて多少增減があるが平均千分中八〇〇で他は銅です時局下うんと引揚げられたいものです」と語つてゐる

街の兩替店でもあの「小判は縱二寸三分から三分五厘横一寸二分五厘から三分で重さは四匁七分六厘前後、楕圓形、正面に一兩、〇元桐の紋があり

（慶長小判）

だが〇元の文字があるのはまさしく元祿小判だと鑑定」以前は慶長小判だと百四五十圓、元祿は八、九十圓

骨董(價値が)

五十圓、元祿二十圓、小粒も丁銀と同性で大はお多福豆から小は小豆位で骨董價値はないがとにかく千兩箱が發見されたら大したものです」との話—十一日までの引揚は小判五、小粒六一、延金十二枚だから以上の鑑定によるとまづ二百八十圓くらゐ、しかも國寶的見地からその功蹟は大きいと關係方面では好評判である

（產婆）タミ子

（伯國公認申請中）

よくきく、のみよい
肝油ハリバ

CINE RECREIO
Praça João Mend s - S. Paulo
（ラルゴ・ダ・セ寺院横）
性女の京東
主演＝原節子 澄刺たる日本女性の意氣を畫く問題の名篇
十四才以下入場禁止
來る廿七、八、九の三日間
午後二時、七時より
入場料 ボルトローナ一ミル五百 メイヤア及びゼラル一ミル
△不死身の男

3-6382 電話
お泊りお食事は安くてきれいな
アジア旅館へ
歸國手續き迅速に取扱ひます
聖市グローリア街二九八（テアトロサンパウロ前）

古 レコード 高價買入
蓄音器、レコード專門
三浦愛蓄堂
聖市ドトール・ルンド街二九

PHOTO-MAURO
高級寫眞館
最もよき
日本人の友
C. Postal, 353
P. Prudente

電氣器具一式
並ニ修理取付ケ
聖市イルマン・シンプリシアナ街一四二番
松岡電氣器具店

歯科 淺倉
聖市グローリア街三五二
電話 二—六八四六

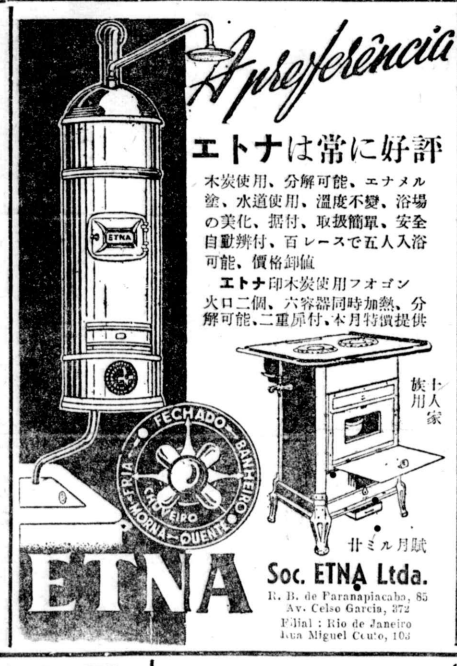
賣バール
バール、カフエ、レストラン、旅行の爲賣渡し、賣價二十コントス、家賃四百五十ミル
問合せは左記へ
Rua Tamandaré, 9

（卜）佐藤鐵工場
中央線セジ・ダス・クルーゼス市郵函五
モジ產組指定農具製作所
大日本內務省（伯國公認申請中）

最高級食慾促進榮養劑、マラリアに特効あり
規那鐵、カルシユーム（トレンチーニ製劑）
サン・パウロ・レイルウエイ線サン・カエータノ驛 電話103

Casa ANGLO-BRASILEIRA
SUCCESSORA DE MAPPIN STORES
明日午前八時半より
弊店傳統的な
恒例大賣出し
を開始致します
品質は勿論極上で、しかも流行の尖端を行くものばかりです
淑女用品
紳士用品
小供用品
家庭用品
全て破格のお値段で提供致します故是非御來店の程をお待ち申上げます
カーザ・アングロ・ブラジレイラ
（舊マツピン・ストーレス）

S. A. F. R. A.
S/A Fazendas Reunidas Aguiar
Jacarezinho C. Postal, 34 - Norte do Paraná
六ケ年契約 珈琲植付農 募集
一、場所 — 北パラナ、ジヤカレジンニヨ、サント・アントニオ、バンデイランテスの各郡內、ドウラド、プレジオン、ナザレ、パウ・ダーレヨ、ペローパス、ミユンヂアイ、ペドラ・ブランカ、ボイ・ピンタード、ラランジンニア、クプリ等の各耕地に於て五十万本植付（初年度二十万本）
北パラナ、インガ驛、バンデイランテス驛、カンパラ驛より約十五キロの地點にして本線中に殘された唯一の地味肥沃、（テーラ・ロツシア）マレツタの無い健康地です
二、無資本者には總べて植付けまで耕主から金策の便があります
三、家族の事情により旅費を貸與します
四、契約完了の人々へは地主になれる便を與へます
五、社長はジヤカレジンニヨ市長で當地方の有力者です
六、御問合せの節は左記へ必ず家族人數もお知らせ下さい
安元青太
Mario Yassumoto
Rua Ebano Pereira, 22 - Curitiba
又は直接同社々長 Dr. João Aguiar
又は上記事務所へ御照會下さい



A preferência
エトナは常に好評
木炭使用、分解可能、エナメル塗、水道使用、溫度不變、浴場の美化、据付、取扱簡單、安全自動弊付、百レースで五人入浴可能、價格卸値
エトナ印木炭使用フオゴン火口二個、六容器同時加熱、分解可能、二重原付、本月特價提供
十人家族用
廿ミル月賦
Soc. ETNA Ltda.
R. B. de Paranapiacaba, 85
Av. Celso Garcia, 372
Filial : Rio de Janeiro
Rua Miguel Couto, 103
モダン粉白粉

ELECTRA O MELHOR RELOGIO SUISSO
UNICOS DEPOSITARIOS JOALHARIA CASA CASTRO
RUA 15 DE NOVEMBRO Nº 150 ANCHIETA
寶石商
カーザ・カストロ
總領事館、ブラジル拓植組合、海外興業會社、各地小學校並に運動團體より御買求めの榮を賜る

Loja das Machinas
R. Quint. Bocayuva, 201
Teleph. 2-1894
São Paulo
現金出納器、タイプライター、計算器、金庫、アルキーボ、事務所用家具、裁縫ミシン、其他諸機具多數
▼賣買交換、値段至廉▲

GIZ BRASIL
Escriptorio : Rua da Quitanda, 76
5.° and. Tel. 2-2539 C. P. 3223
外國製に優る國產白墨
學校、撞球場、洋服店
で歡迎されて居ります

Dr. H. Fenicio
Av. S. João 536-6 and. Tel. 4-1183
淋病
如何なる淋病も五日で完全治癒
北米式クグリング法（洗滌注射を用ひず）
康價

越中富山
賣藥輸入
長森聖榮堂
聖市郵函四一二八
本店 富山市堀端町
支店 ハワイ・ホノルル、市郵函一二九九

二葉屋洋服店
見習數名募集……
聖市コンセレイロ・フルタード街一四二

AZUMA KIRIN
東麒麟

殺人だ・女だ

色と金の縺れ　聖市に血の兇劇……

逆上した邦人男　情婦の親を射つ

加害者もその場で自殺　未遂

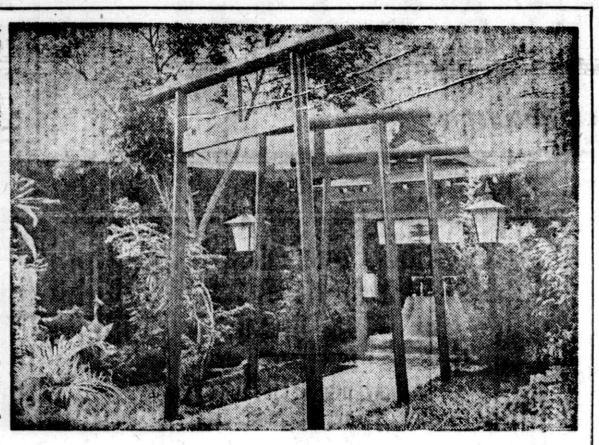
さる廿四日午前五時市内イピランガ區ウエツ・パセラウ街百十一番のハンガリア人家庭に同居してゐた藤木直一（五六歳）は痴情および金錢上のことから右ハンガリー人夫婦と不和を來し口論の果てにピストルを持ち出し二人に重傷を負はせた事件の主人公藤木はこのハンガリー人の義妹と懇意となり約一年間にわたつて同棲してゐたものが、ハンガリー人夫婦は經濟的に惠まれてをらぬため義妹をたねに藤木から約一コントをせびり取り最近同棲してゐるとはいふものゝ事毎に言爭ひをしてゐた、數日前も義妹エリザベスにせがまれてサントスに遊びに行く旅費として四十五ミルを與へたが、エリザベスはこれをその日のうちに使ひ果してさる廿三日夜藤木に默つて藤木の財布から金を抜き取つたゝめ二人の間に激しい口論が起つた、最近藤木は神經衰弱の氣味もあり近所の人達からサンパウロを離れて靜養を奬められてゐた程だが、この時もエリザベスとの口論の末に家族共謀で藤木を苦しめるものと憶測し、エリザベスとの口喧嘩は家族全體を相手にするまでに擴がつてしまつた、その結果何れからともなく腕ずくの喧嘩となり多勢に無勢で藤木はチンチンの御厄介になつたがその際警察でハンガリー人家庭と藤木の立場を訴へたが取り上げられず說諭を受けて廿四日早朝ハンガリー人の家に歸つて來た、ところがハンガリー人夫婦、エリザベス共々戸を堅く閉めて藤木の歸宅を拒んだため、藤木は戸を押し破つて家に入り込み自分の部屋からピストルを持ち出し、ハンガリー人夫婦の部屋に押し入つて夫婦にピストル彈四彈を浴びせさらに殘る一彈でエリザベスを射たうとしたが既にエリザベスは危險を感付いて逃げた後だつた、藤木は兇行後やつと正氣に歸り自殺を決行して、丁度傍にあつたさく酸を飲んで昆倒してゐたのであつた

人妻の自殺　家人の留守に服毒

サンパウロ線サント・アンドレ驛フアゼンダ・ジュツタ在住松岡龍次郎氏妻テル（三九）さんは一昨日午後二時頃家人の留守中アセドを多量にのみ自殺を圖り苦悶中をトマ・カフエーに歸つて來た家人が發見大騒ぎとなり日本病院に擔ぎ込んだが、手遲れでほどなく絶命した

原因については附近の人の話によると家族構成で來た夫の弟がリオで死亡して以來家庭の不幸を苦にし、最近では幾分精神に異狀を來たしてゐたので發作的に自

聖市・ぶらこのごろ



これが　青柳稻荷大明神のそてさ御利益は？

料理屋とお稲荷さん――これ程もてゝゐるし、新しい油揚げも毎日もちゃんとそなへられてゐる賽錢箱もあると言つたからいがネ、先頃青柳に實地調査に行つてみたのだ。

しくデカイお稲荷さんが出來上つて街の話題を賑した情景だが、やはりそこは人寶眞で御覽の如く朱塗りの鳥居があり、コン〳〵樣がはつい中味を覗きたくなるのである

ビツショ華やかなりし頃、或る女給さんがお祈りして塗端に二十何コントが當てゝ以來、ビツショ稲荷の綽名がついた程大繁昌で賽錢箱もズツシリと重さを感じてゐたがビツショ御法度の今日すつかり忘れられてゐる、人間なんて勝手な動物ではあるが、尤も當の正一位樣にしてもこの世智辛い世の中に一、二ミルの端した金で俗人共のいふ事を一から十まで取り上げてゐたんじや限りがないぢやらうテ

千秋樂

大相撲春場所

結びの一戰に男女を屠り　十四勝一敗　双葉・輝く優勝、

十五點の差で東軍に凱歌

【東京廿五日同盟】大相撲春場所は初日以來連日記錄的超滿員の裡に各力士の熱闘がつゞけられたが廿四日の千秋樂、兩横綱の一戰を最後に東軍に凱歌があがり優勝旗は東軍の總帥男女川に授與されてその幕を閉ぢた、千秋樂勝負

佐賀花（寄倒し）鹿島洋名寄岩（吊出し）松ノ里旭川（外掛け）肥州山照國（外掛け）前田山羽黒山（打棄り）安藝海双葉山（上手投）男女川

得點東十一、西廿一、累計東百七十七點、西百六十二點、個人優勝は十四勝一敗の双葉山、横綱三役を除く幕内優勝は十一勝四敗の玉ノ海、十兩の優勝は十三勝二敗の双見山であつた

日本工業に凱歌

小型デイーゼル・エンヂン　どし〳〵伯國に進出

アメリカ海軍の惱みの一つ……いへばノツクス海軍長官もと議會で告白してゐる通り小型艦艇用の小型デイーゼル・エンヂンがなかなか手に入らないといふことであるところが、その小型デイーゼル・エンヂンが日本人の手で立派に完成され、しかも目下ブラジル市場にお目見得中だといふから頗る愉快な話だ右は山岡内燃機株式會社の製作にかゝる山岡式小型内燃機關で商標を「ヤンマー」といひ「日本工業」陣の頭腦を絞り苦心三十余年研究の成果であるが日露戰爭を經るところに於て皇軍の御用に立ち國防の第一線に活躍してゐるといふから、その優秀さは推しても知るべきものがある、据付け、取扱ひ極めて簡便、運轉費も頗る格安と絶對他の追從を許さぬ優秀さで流石「日本工業」の偉力を遺憾なく發揮し、ブラジルに於ける農村動力、都市に於ける小工業用動力として恰好のものであり、この種小型デイーゼル・エンヂンのブラジリン進出は非常に好望されてゐるたほ「ヤンマー」は當地安

女性の描く　戰時下日本

昨年七月、商船鏡倉丸にて歸國した一夫人より最近次のやうな母國近信が寄せられたが女性の繊細な觀察眼に映じた「戰時下日本」の一樣相としてなか〳〵興味深いものがある

（前略）六十三日の長々の航海中、各寄港地にての通信は官憲の檢閲きびしくその上英文でなければ破棄致されます由にて、とうとう船客はどこへも通信致しませんでした（中略）新體制にて民間の需要は壓迫はしてゐるが、でもまだまだ充分ゆとりはございますたゞお米が外米となり木炭の配給が少なくなりましたお酒もまだ〳〵良いものがございます、東京、横濱の大料理店、割烹店、關西料理店などは

一切客止めの大盛況で四、五日以前より豫約申込みをせぬ限り不意の客はお斷りといふ殷賑さでございます

古道具、古鞄類の高價なこと驚くばかりでございますます、東日、讀賣、都

青白き……お百姓さん……

農村へ　農村へ　都會人轉向の姿

今こそ男一匹腕だめし

でも私にはまだ〳〵日本が充分餘裕ある國の如くに思はれてなりませぬお美味しいお料理もまだまだ澤山頂けます、たゞ肉類が少なく、それとても唯今は一切公定價格、昨年九月十八日當時の停止價格よりて牛上肉百匁一圓二十錢より五十錢程度、豚上肉百匁一圓程度で私には別に高いとも思はれませぬ（中略）何んといつても一番ジヤーナリズムの

波に乘つてあられまざるます、東日、讀賣、都すのが輪湖樣でご

各一流紙にての座談會などにも引張り凧の有樣、峰谷樣や畑中樣、安瀬樣の御名は餘り日本の新聞には出ません（中略）唯今軍需工場の求人は大變なもので毎日三百人、五百人、千人の男女工の求人廣告ばかり、このところ日本には生活難はございませぬ、花柳界や喫茶店の女給の求人も亦大したものでございます、女中になぞ誰もなり手はございません、ルンペンは居なくなりました

面白いことは最近各富豪や大商店主、小工場主などの間に「飯米」の確保を得たきところから競爭で

を買入れることが始めまして、そのため私の家の田畑山林など隨分不便な山の中なのですが、大層な値段に上りましたとか、そして大都會近郊のお百姓さんは野菜や米麥、果實等

聖市に血の兇劇……

◆…聖市日伯文化研究會では經費許可を申請中であつたが、二十二日の州官報に聖市中央警察當局の見解が左の如く發表されてゐる

「同會は日伯兩國文化の增進のための會でその主旨は非常に結構であるが現在各種團體は內國人、外國人の二つに分けられて居り、同研究會はその內容から見て殺を圖つたのだらうと

◆…聖市日伯文化研究會では經費許可を申請中であつたが、二十二日の州官報に聖市中央警察當局の見解が左の如く發表されてゐる

「同會は日伯兩國文化の增進のための會でその主旨は非常に結構であるが現在各種團體は內國人、外國人の二つに分けられて居り、同研究會はその內容から見て殺を圖つたのだらうと

◆…聖市日伯文化研究會では經費許可を申請中であつたが、二十二日の州官報に聖市中央警察當局の見解が左の如く發表されてゐる

「同會は日伯兩國文化の增進のための會でその主旨は非常に結構であるが現在各種團體は內國人、外國人の二つに分けられて居り、同研究會はその內容から見て殺を圖つたのだらうと

◆…聖市日伯文化研究會では經費許可を申請中であつたが、二十二日の州官報に聖市中央警察當局の見解が左の如く發表されてゐる

「同會は日伯兩國文化の增進のための會でその主旨は非常に結構であるが現在各種團體は內國人、外國人の二つに分けられて居り、同研究會はその內容から見て殺を圖つたのだらうと

◆…聖市日伯文化研究會では經費許可を申請中であつたが、二十二日の州官報に聖市中央警察當局の見解が左の如く發表されてゐる

「同會は日伯兩國文化の增進のための會でその主旨は非常に結構であるが現在各種團體は內國人、外國人の二つに分けられて居り、同研究會はその內容から見て殺を圖つたのだらうと

◆…早起體操會主催の夏季講習會は既報の通り一月六日から開講されてゐるが、出席者は男子組三十人、女子組五十名で女の子の方が顯然優勢である、毎朝午前六時から岡田體操爺さんのイチ、ニイ、サンの號令で勇ましく身心の鍛錬につとめてゐる

◆…青年會女子部として見事な更生振りを見せたリンス處女會の活潑な動きにつれ今度は「母の會」結成の氣運が市內のお母さん達の間に漲り、日ならずして具體化するだらうと

◆…カルナバルも近づきラヂオは朝から夜中までカルナバルのレコードを放送してゐるが「コロムビヤ」では「風と共に去りぬ」を出して斷然ヒツトすれば「オデオン」ではこの向ふを張つて「風と共に去らず」を發表、賑やかなレコード攻防戰を展開してゐる

◆…今年のカルナバルレコードで斷然光つてゐるのはコロムビヤ發賣の「アウローラ」何んと名前からして昔懷しきルアの名を思出させる方やありませんか、內容も猫も杓子も唱へるあのマルシヤです、レコード番號は五五二五〇日伯社でも賣出し中です

◆…聖市はこの二、三日久しぶりの雨に見舞はれてゐる、「家主をやり込めたので屋根が沈り」……

村

隣りがカシンギー球場なので毎夕猛練習、去二十五日（土）には產組中央會と一戰をやる筈だつたが雨のため延期

Elixir Nogueira
Grande Depurativo de Sangue
梅毒妙藥
萬國藥店に有り

急募
十四、五才以上青年四、五名を求む
經驗の有無を問はず
チンツラリア・ミモザ
アラメーダ・ロレナ二三一

讓店
青物食料店、電動冷藏庫附、病氣の爲至急讓度し
御問合せは
Rua Barra Funda, 621

急告
生長の家誌友の方の小生宛の分はイルマン・シンプリシアナ街一五二番豊吉書店に御願ひしてありますから御受取り下さい、尙日伯情報社外交員の諸君も同店にて小生を御尋ね下さい
矢澤逸男

夏物特價大賣出し
最近流行品豊富、品質優秀、價格至廉
Casa Allemã
Casa Allemã
Schaedlich, Obert & Cia.　Rua Direita, 162-190

部屋借度し
當方通學子女二人、借間、自炊させたし
可能の方は至急　日伯社內　山田へ

急募
調査飜譯事務員　一名
日本中等學校卒業程度
葡文和譯に自信ある者
終日勤務出來る者
右に依り御希望の方は履歷書携帶御來談願ひます
ブラタクブラタ本部
ブラツサダ・セー一
三九九番二階

急募
アルマドール　一名
優秀な紹介狀を要す
Av. Hygienopolis, 222

各種菓子型
右御註文に應じます
聖市エスツダンテ街二九五番
宮川美選堂

歸國土產に〜伯國產珍品を
蝶羽、鰐皮、蜥蜴、獵及びスネーク・ウツド、ジヤカランダ其他伯國產木材等の細工物及び伯國名產アグアマリントパージオ（黃石）ウルマリナ（電氣石）等原石のまゝ又は加工品
どれもお土產として何誰にも喜ばれます、弊店特製、在庫豊富、價格至廉
Zitrin Irmãos
Matriz : R. Buenos Aires, 110-112 - Tel. 25-5550
Filial : Av. Rio Branco, 29 - Telefone, 23-0037
Rio de Janeiro - Brasil

ヤンマーS型純ヂーゼル・エンジン
時代はヂーゼルへ!!!
三十余年の經驗と最新の設備を誇る
山岡內燃機株式會社の製品なれば絕對自信を以て御勸め中上げます
現品は弊社工場に陳列、試運轉の上說明、又御申越次第カタログ進呈
伯國總代理店
安東商會
ANDO & CIA. LTDA.
Rua Boa Vista, 16, 4. andar
C. Postal, 2880 - Tel. 2-7888
S. PAULO

・ナ・ノ・ニ・シ・メ・ニ・ナ・
鹽酸シノメニーナ
「神經痛でお困りですつて」
まだ鹽酸シノメニーナをご存じないのですか？
神經痛特効注射最新藥劑
聖市販賣所　日伯社　C. Postal, 375　S. Paulo
元賣發　原商會　C. Postal, 3015　S. Paulo

・Ginasio Paulistano
Rua Taguá, 150
Liberdade - S. PAULO
入學受付開始
初等科　中等科
豫備科　師範科
各科晝夜間部あり
最も多くの日本人通學生を持つてゐるジナジオです――

昭和十六年一月二十日
妻ナツ儀永ら病氣中の處養生叶はず去る十四日午前一時自宅にて死去致し候
相當の儀は御丁寧の御香典を賜はり候
諸賢に謹告仕候
ボヴエラ・ソルテル長男　ヴエラ・クルス長女　バウリスタ延長線植民地驛
夫　長男　次男　孫　孫女　友人婿
三浦　庄　松　登エ智　鈴　西　坂　大安　杉中崎原井木　平新　清伯富ヘツ　柳太郎門雄　八郎　三次美一　淺耕德

Redacção e Administração
Rua Maestro Cardim, 1109
Teleph.: 7-3325 e 7-3326 - Cx. Postal 375
End. Telegraphico: "ASAHI"
SÃO PAULO - BRASIL

BRASIL ASAHI

DIRECTOR: José Yamashiro

ASSIGNATURAS:
PARA O BRASIL Anno.... 60$000 / Semestre. 30$000
PARA O EXTERIOR - Anno.. 120$000
ANNUNCIOS — Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços p/ annuncios nesta folha

Anno I | São Paulo — Domingo, 26 de Janeiro de 1941 | Num. 152

NOTAS E EDITORIAES

O almirante Kichisabro Nomura, novo embaixador do Japão, junto ao governo de Washington partiu dia 23 ultimo, com destino aos Estados Unidos. Altas auctoridades e figuras representativas de todos os circulos sociaes, estiveram presentes ao seu embarque.

O embaixador Nomura deixa o Japão, justamente no momento em que este se prepara para enfrentar qualquer emergencia. A missão do diplomata nipponico é ardua, pois cabe-lhe a grande tarefa de reajustar as relações nippo-norte-americanas, que se encontram a um passo do rompimento.

O embaixador, antes de partir para o seu posto, visitou a China e participou, especialmente, da conferencia havida entre os membros do governo e os estados maiores de forças de terra e mar do Imperio.

Deve, portanto, ter apprehendido as verdadeiras intenções e a direcção da politica japoneza. A missão do novo representante diplomatico nipponico na terra de Tio Sam póde ser assim resumida: 1.°) esclarecer que a politica exterior do Nippon será orientada de accordo com as bases do accordo triplice; 2.°) no citado accordo está estabelecido que as potencias signatarias reconhecem o facto de ser o Japão força estabilizadora da Asia Oriental; 3.°) o Japão fará o maximo esforço para reajustar as suas relações com os Estados Unidos, afim de levar avante sua politica externa. O embaixador se encarregará de obter a comprehensão do governo de Washington a respeito desta orientação de Tokyo.

Quanto aos itens 1.° e 2.°, nada ha a falar, mas o 3.° parece, á primeira vista, ir contra os dois primeiros.

No emtanto, se reflectirmos bem, não ha nenhuma incongruencia nisso. Vejamos porque:

Se os Estados Unidos reconhecerem que o Nippon representa de facto e de justiça, a força estabilizadora da Asia Oriental, as relações entre os dois paizes voltarão ao normal e a paz no Oriente será restabelecida, o que, sem duvida, traria a prosperidade daquella parte do globo. E o Nippon e os Estados Unidos seriam beneficiados por essa prosperidade. Emquanto os Estados Unidos não reconhecerem a posição do Japão na Asia Oriental, haverá discordia, causa de muitas infelicidades para as duas nações.

***

São Paulo commemorou hontem, com grandes solennidades civicas e religiosas, o 387.° anniversario de sua fundação.

O governo do Estado, de accordo com a Prefeitura da Capital e contando com a collaboração da 2.ª R. M. e do Arcebispado, organizou um programma official de commemorações que teve brilhante execução.

***

O sr. dr. Salgado Filho, ministro da Aeronautica, chegou hontem a esta Capital, tendo feito a viagem por via aerea. Amanhã S. Excia. seguirá para Limeira.

***

"Depois de expor os motivos por que considera fóra de duvida a manutenção do Recife no terceiro logar entre as cidades mais populosas do paiz, a imprensa da capital pernambucana faz esta judiciosa consideração: 'Carregamos ainda por muito tempo esta onerosa carga de cidade excessivamente populosa em relação aos seus recursos economicos e ás possibilidades financeiras da administração'.

A observação não deve circumscrever-se ao caso do Recife, mas sim deve ser entendida mais amplamente, á hora em que se approxima a revelação dos exactos numeros de habitantes de todas as cidades brasileiras.

Já se tem por certo que, em muitos casos, os resultados do nosso 5.° Recenseamento Geral não confirmarão as actuaes estimativas. A propria cifra de 45 milhões attribuida ao paiz é já hoje considerada superior á da população realmente existente.

E ses resultados serão divulgados sem temor de criticas, pois o Serviço de Recenseamento dispõe das mais seguras provas de que a contagem censitaria foi rigorosa, não tendo escapado a ella mais do que uma percentagem infima e estrictamente inevitavel de habitantes, como acontece, aliás, em quaesquer operações de se genero, inclusive nas mais dignas de fé.

Assim, como o que importa deve ser só e só a verdade, não podem causar desalento a ninguem esses provaveis desencontros.

População numerosa nem sempre significa, principalmente nos meios urbanos, indice de riqueza, mas, pelo contrario, como acontece em todas as grandes cidades, motivo de fundos desequilibrios sociaes.

Além disso, o Brasil não fez o recenseamento para confirmar o que já sabia, mas para saber o que ignorava, porque muitos suppostos conhecimentos não passavam de meras conjecturas".

(Communicado do S. N. R.)

Será reduzido á metade o numero de projectos governamentaes a serem apresentados á Dieta

O projecto lei da reforma eleitoral

Tokyo, 23 (D.) Após a sessão do Gabinete de hontem, o governo publicou a seguinte nota por intermedio do chefe do Departamento de Informações,

Sr. ITO, chefe do Depart. de Informações

referente á orientação do governo no presente periodo legislativo:

"Conforme declarações do presidente do Conselho na sessão legislativa de hoje, o governo, em vista dos graves acontecimentos internacionaes, levou a effeito novos estudos dos varios planos governamentaes a serem apresentados á apreciação da Dieta Imperial. Levando em consideração a nova orientação demonstrada pela Camara dos Representantes relativa ao presente periodo legislativo, o governo procedeu ao reexame dos projectos de leis, entre os quaes, o de reforma da lei eleitoral. Como consequencia desses estudos, resolveu-se suspender a apresentação dos projectos de reforma da lei eleitoral, das corporações agricolas e o relativo á fiscalização da distribuição de electricidade.

E' do desejo do governo, ainda, prorogar por mais um anno, o mandato dos membros da Camara dos Representantes, dos deputados provinciaes e districtaes. Quanto a outros projectos, o governo está ainda procedendo aos seus estudos, mas consta que o numero de projectos a serem apresentados será reduzido á metade".

Tokyo, 23 (D.) — Na sessão extraordinaria realizada hontem na residencia do primeiro ministro, o governo resolveu suspender a apresentação á Dieta do projecto de reforma da lei eleitoral. Resolveu-se tambem, por outro lado, apresentar um projecto de lei que prorroga por mais um anno, o mandato dos actuaes representantes do povo. Não será apresentado tambem o projecto de lei que creava o regimen de conselheiros de ministerio, supprimindo os conselheiros parlamentares.

Annuncios efficientes?
Só no "BRASIL ASAHI", jornal de maior circulação na Colonia Nipponica
Tel. 7-3326

Seria reduzida a duração da sessão da Dieta

Importante declaração do sr. Machida

Tokyo, 22 (D.) — A moção da Camara dos Representantes referente ao fortalecimento do regimen do tempo de guerra, foi approvada por unanimidade no plenario de hoje, unindo assim, governo e Dieta, na marcha para a nova ordem. O sr. Chuji Machida, que foi encarregado de explicar a moção na sessão de hoje, acrescentou á sua explicação, uma importante declaração dizendo que tanto o governo como os deputados se esforçariam no sentido de terminar o quanto antes possivel o actual periodo legislativo. A declaração do sr. Machida representa a intenção da Camara de examinar rapidamente os projectos de lei e o projecto orçamentario, apresentados pelo governo, afim de reduzir a duração do periodo parlamentar. O governo já estava manifestando o desejo de encurtar o periodo legislativo. Por isso a declaração do velho parlamentar terá grande influencia na marcha dos trabalhos da actual sessão parlamentar.

O noticiario telegraphico publicado pelo "BRASIL ASAHI" é fornecido pela Agencia Domei, japoneza.

Os trabalhos da Dieta Imperial

Discussão do projecto orçamentario

Tokyo, 23 (D.) — A sessão da Dieta Imperial reaberta no momento em que o povo japonez está resolvido a vencer corajosamente a crise nacional, está marchando rapidamente no sentido de desempenhar as funcções de um verdadeiro orgam cooperador da politica imperial. Assim logo no segundo dia, de suas actividades, a Camara dos Representantes approvou a resolução de apoiar o governo no fortalecimento do regimen de guerra, e resolveu tambem não interpellar o governo, facto este inedito nos annaes daquella casa. O governo por sua vez, correspondendo á attitude da Dieta, decidiu executar uma grande modificação nos projectos de lei que apresenta á ao Congresso.

Desta arte fica estabelecida uma estreita collaboração entre o governo e a Dieta, sendo provavel que o periodo legislativo seja reduzido.

Já no terceiro dia, a Camara dos Representantes iniciou a discussão do projecto orçamentario, após ouvir a explicação do ministro das Finanças, sr. Kawada.

Amanhã prosseguirá a discussão sobre o projecto orçamentario.

Esboço da Litteratura Japoneza

YASUSHI URIU

(15)

Nenhuma reunião estava completa sem as suas presenças e nenhuma tyrannia masculina era possivel se manter, tanto na sociedade como na vida individual. E, emquanto que os homens illustrados continuavam a escrever em chinez, as mulheres escreviam em puro estylo japonez, empregando a sua lingua nacional, produzindo a maioria das obras importantes da litteratura do Japão. Os estudiosos da civilização japoneza e os advogados do espirito japonez pódem muito bem não perder de vista estes factos interessantes".

Estes trabalhos da litteratura indicam manifestamente as fortes influencias do epicurismo. Uma simples melancholia por causa da transitoriedade da vida, se demora qual a briza delicada da ultima primavera, porém um agudo desejo de gozar cada momento ephemero brilha como o sol no inicio do verão; e, contentes com o privilegio de estarem vivos, aquellas gentes gentes permaneciam quase que inteiramente indifferentes aos abalos do mundo exterior.

Afóra os seus infortunios pessoaes, nada havia que pudesse perturbar as suas almas. O céo era azul e as flores eram adoraveis; as suas preoccupações não eram mais que cantar e se divertir. Se elles se encontrassem com negocios de amor, que não o proprio amor havia um outro trabalho tambem importante, — a confecção de poemas os mais lindos que com elles pudessem ganhar os corações de seus entes amados.

"Ise Monogatari", o livro das aventuras amorosas de Narihira, contem todos os seus poemas amorosos. Este homem, Narihira, era um cortezão e um official militar e o mais bem succedido Don Juan de todos os Don Juans. Sua vida, que se extendeu de 825 a 880, não foi gasta senão na caça de amores e na confecção de ballades. Mesmo na sua longa viagem á planicie de Musashi, nas circumvizinhanças da actual Tokyo, que então não era mais do que um pantano deserto, elle parecia não negligenciar aquelles dois pontos.

O seu poema composto ao atravessar o Rio Sumida mostra o delicadissimo sentimento dum viajor que se recorda de seu amor distante. A noite vinha então cahindo sobre o solitario rio, no qual algumas "aves da capital", quaes gaivotas marinhas, fluctuavam. O poeta exclama:

"Oh tu ave do Miyako!
Se este é o teu nome,
Vem!, que uma pergunta lhe quereria fazer:
Aquella a quem amo
Ainda vive ou não mais existe?"

Comtudo, logo depois, este lindo fidalgo não póde recusar algumas bellezas rusticas, a despeito de seu anhelo por seu lar e sua amada.

O total das suas questões de amor, de accordo com o livro, anda por volta de cento e vinte e cinco. E em cada caso, elle sempre parece ter sido o quase vencedor sem o minimo uso de violencia ou de poder. A unica cousa que o fazia sentir infeliz devia ter sido o poder excessivo da clan Fujiwara, para a qual elle não era competidor.

Continúa

Impressos?
Procure a typographia
NIPPAK-SHA
C. P. 375 — Teleph. 7-3325

Lembrança

26-1-1941

Quando chegaram as festas do cyclo do Natal, elle andava ausente de São Paulo. Não passou as festas aqui, nem atravessou a linha do Anno Novo (que a gente não sabe ainda se não é um 1914 ou o 1940 com a barba cortada) na Capital.

Mas hontem, São Paulo lhe appareceu com o mesmo aspecto que nos dias de Natal e Anno Novo, como sempre estava acostumado a ver, — o seu São Paulo já bastante conhecido. Assim com o céo todo brumoso, as ruas molhadinhas, as gentes de roupas novas, andando com guarda-chuvas e com pequenos embrulhos e dando a impressão de que o proposito dellas estava gorado...

Um dia com "aquella chuva enjoadinha e ciumenta", que a gente não sabe se dura muito ou não, ou se vae deixar a gente usar o vestido novo, o sapato novo, o "rouge" novo..., ou ir ao encontro marcado para a tardinha...

Era assim, um dia chuvoso, como quasi todos os dias da vida de alguem. — *M.*

88 dias no Extremo Oriente

LVII — José Yamashiro

Passei tambem pela succursal da "Mantetsu", onde procurei o sr. Shinzi Yoshida, que nos acompanhára até o Mandchukuo e a Korêa. Todos elles — o visconde Inaba, os srs. Kanazawa, Nakamura e Yoshida, que foram de extrema gentileza para com a Caravana, tiveram palavras amaveis ao se referirem aos membros da mesma e recordavam com saudade, a pressurosa viagem que fizeram comnosco.

Na "Kokusai Bunka Shinkokai" falei com o sr. Aoki e seus auxiliares, que se mostraram muito interessados pelo movimento cultural brasileiro. Solicitei-lhes livros sobre todos assumptos japonezes que a "Kokusai" publica em idiomas inglez e francez, para o "Gremio Cultural Brasileiro-Nipponico de São Paulo", no que fui promptamente attendido.

* * *

Numa manhã fresca de Julho, sentei-me em frente ao microphone da "J. O. A. K.", para lêr as minhas impressões de viagem, numa irradiação para a America do Sul. Foi o sr. Midorikawa, encarregado das irradiações em portuguez, que incluiu esta irradiação no programma destinado ao Brasil. Parece que ninguem aqui ouviu. Aliás o Pimentel, "speaker" da emissora japoneza, havia me dito que naquella epoca as irradiações para o Brasil, não haviam sido satisfactorias. "A gente faz um esforço inutil, pois ninguem lá nos ouve". — disse, com o seu sorriso caracteristico, bom, o amigo Pimentel.

* * *

Já alludi ao facto dos japonezes possuirem gostos extremamente variados, quanto a alimentos. Embora predominem, como é natural, os pratos nacionaes, nos lares nipponicos, nas cidades existem restaurantes de todas as especies. A mesma variedade de estylos e gostos se observa na architectura. No Japão existem construcções typicamente japonezas, (a maioria das residencias, e os sanctuarios shintoistas), chinezas (templos buddhistas), occidentaes (partes modernas das cidades), havendo tambem os intermediarios, isto é, misturas e combinações, de dois ou mais estylos. Ha tambem algumas construcções onde se nota a influencia da architectura indiana, como o templo Honganji de Tsukiji, em Tokyo. O japonez introduziu, tudo quanto era possivel introduzir, das sciencias e artes do occidente e do oriente. Mas jamais deixou de imprimir um cunho especial, genuinamente japonez em tudo que introduziu ou imitou do extrangeiro. Mesmo nas construcções de estylo occidental, esses arranha-céos de cimento armado, nota-se immediatamente a "assimilação" que soffreu ao ser adoptada no Japão. Os predios do Marunouchi no centro de Tokyo, por exemplo, são todos desse typo: arranha-céos de cimento armado, modificados e adaptados, ao solo e clima do Japão.

Na litteratura tambem, o paiz das cerejeiras, abriu suas portas para todo o mundo. Desde as obras classicas da Grecia, Roma, China, e outros paizes, ás obras da Renascença, dos grandes escriptores e poetas modernos e contemporaneos do occidente, foram traduzidos e amplamente divulgados. Shakespeare, Byron, Goethe, Dante, Machiavel, Rabelais, Montaigne, Cervantes, Heine, Victor Hugo, Musset, Zola, Balzac, Dickens, Tolstoi, Dortoiewsky, etc., sem falar nos nomes de philosophos e scientistas, cujo estudo é obrigatorio nos cursos superiores, são familiares, entre a grande massa intellectual do paiz. Devido á immensa difficuldade que o japonez tem em dominar idiomas extrangeiros, ha traducções de todos os livros famosos no extrangeiro. E teem tiragens compensadoras: Varias editoras lançaram, até hoje numerosas "collecções de obras mundiaes", quasi sempre com successo absoluto. Ainda hoje, no meio do vendaval nacionalista que sopra em todo o territorio nipponico, os auctores de fama mundial são bem conhecidos. Traducções de auctores actuaes inglezes, americanos, allemães, russos etc. são publicadas, não obstante a carencia do papel. Ainda no anno passado surgiram traducções de livros recentes, como "As vinhas da Ira", de John Steinbeck, "Other Gods" de Pearl Buck, "Memorias da Grande Guerra", de Lloyd George. "E as Chuvas Vieram", de Bromfield, só para citar aquelles de que me lembro no momento. Obras de auctores francezes como Gide, Valery, Bourget, Romain Roland Mauriac, Maurois, etc. são tambem muito apreciadas.

Acrescente-se a todos os auctores occidentaes, os classicos chinezes e nacionaes, e os escriptores nacionaes contemporaneos, sabendo-se que alguns livros, como por exemplo o "Trigo e soldados", de Ashihei Hino, têm uma tiragem superior a um milhão, e ter-se-á uma idéa de como o povo japonez é amigo da leitura. As livrarias japonezas estão sempre repletas de freguezes, especialmente estudantes, que procuram livros e revistas.

O grande numero de myopes que existe no Japão, principalmente entre estudantes, parece ter origem no excesso de leitura.

Os jornaes e revistas japonezas, cedem grande espaço para publicidade renumerada de livros, de auctores nacionaes e traducções. Já vimos que os mais importantes orgams de imprensa japoneza têm tiragens colossaes. As revistas evidentemente não podem competir, em numero de exemplares por edição, com os jornaes. Mas as revistas japonezas são volumosas, especialmente as mensaes, que são as mais importantes. Existem revistas para todos os graus de cultura, todas as idades, todos os gostos. As grandes revistas mensaes, possuem 300, 400, 500 e até 600 ou mais paginas. Versam sobre todos os assumptos: politicos, economicos, sociaes, literarios, esportivos, cinematographicos, theatraes, etc.

(Continua